

謹賀新年



今年も華麗な舞を披露します！
「白川村チビっ子民踊クラブ」

CONTENTS

新年のごあいさつ	2
議会だより	4
応援してください ふるさと寄付金 ..	11
INFORMATION 暮らしの情報 ..	14





新年のごあいさつ

白川村長 成原 茂

明けましておめでとございます。

村民皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。村の振興発展のため、力を尽くして参りますので、今年も変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。皆様もご承知のとおり、年末の衆議院選挙においては自由民主党が圧勝し、12月26日には安倍新政権が発足し、新たな時代の幕開けが告げられました。国政においては景気対策、外交、震災復興、原発等多くの難題が山積しておりますが新政権には「安定した政治を確保」し、一歩一歩着実に取組んで頂けることを期待するものであります。また、村内においても長年の懸案であった世界遺産地区内交通問題が年末の荻町区大寄合において平成26年4月から「観光車両の乗入れ規制」を行うことで決定されたと聞いております。これまで取組んでこられた荻町区長を始め荻町交通対策委員の皆様へ深く敬意を表するとともに、英断を頂いた荻町区民皆様へ心から感謝申し上げます。村への要望に關しましては、幾つかの課題もありますが積極的にスピード感をもって対応してまいります。就任以来、「白川村第6次総合計画」の実施計画に基づき、私の掲げた「マニフェスト」「いつまでも住み続けたい村へ」を示し、「仕事があり」・「子供が増え」・「誰もが元気で過ごせる」を柱に具体的な施策を進めてまいりました。

【仕事があり】村内では長引く経済の低迷や東日本大震災の影響等、様々な要因から公共工事の減少、観光客の減少により主要産業である建設業、観光業を取り巻く環境は大変厳しい状況となっております。平成24年度は防災、減災を目的とした庁舎の耐震化、防災無線のデジタル化、村道においては老朽化した橋梁の修繕、耐震化、道路法面保護等の防災工事を中心に積極的な予算を組ませて頂きました。今後も国の経済対策大型補正予算にも注視しながら柔軟に対応させて頂きます。また、観光においては誘客を図るため県や近隣市町村の観光部局と連携し、国内外での積極的な誘客活動や踊り街道フェスティバル、大白川ウォーキング等のイベントを開催しました。ソフト面では2年連続で取組んできました「白川村観光基本計画」が3月に完成予定となっております。今後は当計画に基づいた新たな観光戦略を展開し裾野の広い産業として成熟させ村全体の活性化に繋げて行きます。一方、新産業の創出として若者を村へ呼び戻し、新村民を迎え入れるための安定した雇用の場を確保するため、食品工場等の企業誘致と6次産業化による白川郷ブランドづくりを推し進めてきました。その結果、企業誘致第1号として村内で生産された米粉を活用した米麵工場(有レイク・ルイズ)が旧白川小学校校舎を拠点として2月から操業が始まります。この他にも数社の事業者と用地選定等、具

体的な交渉に入っており着実に企業誘致等による6次産業の育成が図れつつあると感じています。

【子供が増え】誰もが元気で過ごせる。これまでも少子化や子育て支援策、高齢者の方の外出支援等、様々な施策を講じてきましたが、新年度予算では定住促進や移住者を受入れるための人口増加策を更に力強く推進するため「新たな移住・定住対策基金」を設置します。この基金を活用して在宅介護者や在宅障がい者の負担軽減、老人等屋根雪下ろし助成の見直し、地域ブランド開発支援、定住対策通勤助成費の拡充、学童保育の実施、空家の再活用等を継続して実施することにより村民が増え誰もが安心して暮らせる村づくりを目指します。教育においては、今年で3年目を迎える本村の一貫教育を、昨年「白川郷学園」と名付けました。白川郷学園では、「確かな学力・ふるさと学習・英語学習」とおして、心豊かで、たくましく、ひとり立ちする子の育成を目指しています。また、昨年は小中合同の運動会・体育祭も開催が出来ました。本年は、より一層内容、質の向上を図り、一流の白川びとを育てていきます。

最後になりますが、村民の皆様には、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって飛躍の年となりますことを心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



新年のごあいさつ

白川村議会議長 高桑徹司

明けましておめでとうございます。日頃からお喜びしております、村民皆様からのご厚誼に改めて感謝を申し上げますとともに、本年も一層のご指導ご鞭撻を賜ります様、宜しくお願い申し上げます。早いもので、議長を拝命して二年になります。早いです。村民皆様に、身近に感じて頂ける議会運営を目指して、努力して参りました。議員と直接懇談して頂ける地域座談会は、昨年三回目を迎え、これまでの座談会を精査した中で、二点の改良を致しました。一点目はテーマを絞る事。二点目は、各議員の発言にも意志と責任を持ってもらう為に、くじで二班に分けて実施致しました。村民皆様の参加数は、決して多いとは言えませんが、議会としての本来の機能と役割を理解して頂きたいと考え、例えば、「行政と議会は車の両輪だ」と、言われたりしますが、決してそればかりではなく物事の可否の意思をしっかりと行政に伝える事で、村民皆様にとってより良いと言われる政治活動をして行かなければならない組織であるという事を、村民皆様に伝えたいと思います。参加者の皆様から沢山の知恵を頂く事で、私達も一つでも多くの階段を上り成長させて頂きたい。そうした思いが、村民皆様との懇談会に詰まっております。今後、本年こそ多くの皆様に参加して頂けます様お願い申し上げます。また、議員もゲートボールをはじめ、多くの行事に積極的に参加するよう取り組んでおりますので、是非お声をかけて頂けるとう有難いです。

さて、白川村が取り組まなければならない問題は山積しております。世界遺産の保存と活用、医療福祉、教育に関する事、雇用、婚活や少子化対策等々、私の両手両足の指の数では到底足りません。沢山あるなかでの一丁目一番地。私は、村民人口の減少歯止めへの対策であると考えております。白川村が、世界遺産に登録された平成7年12月には、1938人の人口でしたが、私がこの原稿を書いている今日、1763人になっております。残念ながら世界遺産というだけでは、人口増加に繋がりませんでした。現在村では、成原村長の考えにより、職員が自らの意思で手を挙げ企業誘致のチームを創り、日本中を駆け巡り白川村で起業できる仕事を、一生懸命探しております。私達議員も時には全員で、また有志で、候補となつた事業を自らの目で見て意見を交わしながら、今日に至っております。白川村で暮らして行く為には、暮らして行ける雇用を創出しない限り、この問題の解決の糸口には至らないと考えております。様々な企業や業種の仕事を視察させて頂いた中で感じた事は、特に工業においての多くの仕事は、その殆どが機械が行い、人の手で任される仕事は職人技というレベルの仕事が多く、白川村での起業には、馴染まないと感じました。そうした中で、白川村が取り組んで行く業種として私は、観光と農業を主体とした食材に関わる仕事ではないかと考えております。白川村で生産して加工してお客様に提供する。これこそ、村民みんなの手で一人のお客様にもてなしをする。そんなスタイルに沿う企業の誘致が、一番受け入れ易いのではないかと考えております。これは、私に限らず多くの議員や企業誘致のチームスタッフ、成原村長も同様の思いではないかと感じております。しかしながら、新しい雇用の場には、新しい白川

村民が暮らす事でもあり、ご近所付き合いにも新しい風が吹くかもしれません。また、建屋が建つたりする事で、窓からの風景が変わる事もあるでしょう。でも、私達白川村民には、人口減少対策にかける事のできる時間は多くはありません。どちらかと言うと、すぐにでも始めて行かなければならないのです。とは言え、すべてが良いから始めなさいという訳にはなりません。誘致しようとする仕事も現在ある仕事も、村民皆様に村自慢として貰えるようにしなければなりません。白川郷学園を卒業して行く子供たちが、将来の仕事の選択肢の一つとして貰えるような職場創りを、私達は考えて行かなければなりません。成原村長の唱える「いつまでも住み続けたい村」を実現する為には、安心して暮らして行ける環境づくりが大前提です。雇用や仕事を基軸として例えるなら、世界遺産は白川村という大樹の幹であり、根は荻町という大地に下ろし、世界遺産という幹に雇用という枝に働く人々の葉が茂り、そのすべてが一つになって、白川村という大樹が育つのではないのでしょうか。枝は、白川村での仕事そのものであり、葉は、それを源に生きてゆく村民一人一人だと考えております。私は、牧から小白川まで、枝葉を大きく広げた大樹に笑顔の花を咲かせるように、村民一人一人が笑顔で暮らせる村づくりを、村民の皆様と共に考えて行ける議会でありたいと思っております。

結びに、村民皆様からの一層のご指導を賜ります様に改めてお願いを申し上げます。村民皆様の益々のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

12月21日(金)平成24年第4回白川村議会定例会が行われました。

今回の定例会では、行政報告、意見書の提出、議案等について審議され、全て原案通り可決されました。主な内容は次のとおりです。

□地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書の提出について
地球温暖化防止のため温室

効果ガスの削減は、我が国のみならず地球規模の重要かつ喫緊の課題となっており森林の持つ地球環境保護、国土の保全など「森林の公益的機能」に対する国民の関心と期待は大きくなっています。地球温暖化防止をより確実なものとするためには、森林の整備・保全等の森林吸収源対策や豊富な自然環境が生み出す再生可能エネルギーの活用などを山村地域の市町村が主体的・総合的に実施することが不可

□白川村過疎地域自立促進計画の変更について
過疎地域自立促進計画事業内容の区分について一部変更しました。

欠です。二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ「地球温暖化対策のための税」の一定割合を森林面積に応じて譲与する「地方財源確保・充実する仕組み」を早急に構築することを強く求めます。この意見書は、衆参両院議長、内閣総理大臣をはじめ、関係大臣に送られました。

平成24年度補正予算

- 一般会計 (第4回)
 - 増額： 7,001万1千円
 - 計： 39億7,455万5千円
 - 増額の主なもの：財政調整基金積立金・平瀬幹線舗装補修事業など
- 国民健康保険特別会計 (第3回)
 - (事業勘定)
 - 歳入歳出の総額に変更なし
 - 計： 2億2,782万7千円
 - (直診勘定)
 - 歳入歳出の総額に変更なし
 - 計： 1億292万4千円
- 簡易水道特別会計 (第2回)
 - 歳入歳出の総額に変更なし
 - 計： 4,954万6千円
- 温泉開発特別会計 (第3回)
 - 増額： 742万0千円
 - 計： 8,141万7千円
 - 増額の主なもの：小水力発電施設管理費など
- 白弓スキー場特別会計 (第3回)
 - 増額： 300万0千円
 - 計： 3,011万5千円
 - 増額の主なもの：索道管理費
- 公共下水道特別会計 (第3回)
 - 減額： 3,850万0千円
 - 計： 4億8,937万7千円
 - 減額の主なもの：公債費など
- 介護保険特別会計 (第2回)
 - (保険事業勘定)
 - 増額： 1,308万9千円
 - 計： 1億9,002万2千円
 - 増額の主なもの：居宅介護・施設介護サービス給付費など

□白川村条例の左横書きに関する特別措置条例の制定について
今年度実施した白川村規集改廃業務に伴い、条文を右縦書きから左横書きに変更することを目的に制定しました。

□白川村議会委員会条例の一部を改正する条例について
地方自治法の改正に伴い委員会に関する規定が簡素化され、条例への委任事項が拡大されたことにより条文を整備しました。

□白川村議会議務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例について
地方自治法の改正に伴い、政務調査費が政務活動費に改められたことにより条文を整備しました。

一般質問

白川郷学園未整備事業について (大田議員)

Q、小中一貫教育がスタートして2年目を迎えた。白川郷学園開校当初からの意見・要望がある小学校体育館拡張及びプールの新設計画についてどのような状況であるか。体育館拡張に関連する事業として

てゲートボール場の計画についてもお聞きしたい。また、白川郷学園付近の通学路について、側溝蓋がない危険な場所の安全対策をお願いしたい。

A、体育館・ゲートボール場・プールについては、平成27年度以降に過疎債事業を活用して計画を進めています。体育館拡張にはゲートボール場の移転が必要ですが、移転前に学校の新たな取組みとして、授業にゲートボールを取り入れ、地域のお年寄りとの交流・ふれあい活動を計画しています。また、ゲートボール場を使用している老人クラブとの協議では、施設整備の条件をクリアすることで旧白川小体育館へ移転することに同意を得ています。プールについては、トイレ・更衣室の設備状況が悪いですが、プール本体には問題ないと判断します。また、プールの整備場所については様々な意見があり、もう少し話し合う必要があると考えます。今後の教育関係の事業計画の優先順位として、平成25年度に教職員住宅を建設、平成26年度に中学校体育館の耐震工事を計画しています。通学路の側溝蓋がない場所の安全対策については、学校及びPTAからも合

わけて要望がありました。関係課及び地域の方と調整しながら平成25年度予算で対応したいと考えています。

白川村役場機構の見直しについて (大田議員)

Q、現在、白川村役場は総務課・村民課・産業課・会計室・教育委員会の5つの機構となつている。各課長への負担が非常に大きいと感じる。白川村には世界遺産があり、産業課の商工観光係・教育委員会の文化財係など世界遺産に関する仕事を行う世界遺産課を設置するなど、一層充実した機構にすべきでないか。

A、教育基本法が改正されたことよって文化財業務を村長部局で行うことは可能ですが、白川村の条例では教育委員会が所管することとしています。村としては、保全する文化財担当とそれを有効活用する商工観光担当は、しっかりと分けておいた方が良く考えています。よって観光担当と文化財担当を統合する考えはありませんが、課長の業務が膨大になっていることは感じています。そのことを踏まえ、平成25年4月1日に機構改革を目指し協議していますので、今後議員皆さんにご

相談させていただきます。

地域振興定住対策特別基金について (森崎議員)

Q、村民の地域定住を図るため、産業の振興と克雪生活環境の向上を目指し、昭和63年から6千3百万円の基金を積立て施行された定住対策事業は、屋根の落雪補助、除雪機購入補助等として活用され、村民の克雪生活環境は向上し、基金の目的は達成されたと判断できる。現在、基金残高は約2百万円と減少し、地域振興定住対策特別基金は本年度で廃止すると聞いたが、白川村の人口増加対策は最大の課題であり、定住対策は必要不可欠である。新しい定住対策基金を設置し、村民が定住しやすい村づくり、若者が村に残ることができる村づくりに向けた施策が必要でないか。

A、地域定住による人口増加対策は非常に大切な課題であり、現在の地域振興定住対策特別基金に代わる新規事業を新年度に向けて実施したいと考えています。内容については各関係課が連携して検討している段階ではありますが、過疎債ソフト事業費などを財源に、地域定住人口増加を目指

すため、Iターン・Jターンの者の受入れ、村内の空き家の活用、通勤補助の拡大、第3・4子を育てることができ環境づくり、住宅のバリアフリー化など、あらゆる対策を練り定住したい村づくりのための事業を進めていきます。

白川村補助金について

(森崎議員)

Q、白川村の振興発展を図るため、事業を行う団体等に対し補助・交付金を交付している。現在交付団体はどのくらいあるのか。新規事業への交付件数は少なく同じ事業団体へ継続的に交付しているように伺える。村の振興発展のため継続的な事業団体からの申請書を精査し、本間に必要な事業団体へ交付するためのメリハリをつけるべきでないか。

A、平成24年度の補助金申請数は34件であり、主なものとして白川村商工会事業、白川郷観光協会事業・中学校海外研修事業などに交付しており、全ての団体が補助金の交付規則にのっとり書類等の審査を行っています。また、補助率等が定まっていない村長が特に振興上必要と認める事業等に関しては、実情においてしっかり審査し決定して

います。以前予算削減のため、事業内容に関係なく一律10%カットをしたこともありましたが、各団体を把握し、必要な団体・育てようとする団体には手厚く、また育ててきた団体は減少させるなどメリハリをつけることを考え、村を支えていただく団体等を支援していきます。また、活動支援補助金という上限50万円の補助事業もあり、今年度は農業を楽しむ会や、二胡コンサートなど単発的に行う事業や団体に対しての支援補助も行っていきます。多くの団体に知っていただき、有効に活用してほしいと考えます。

2014年北陸新幹線の開業について (小坂議員)

Q、2014年北陸新幹線が開業し、東京駅～金沢間が2時間30分となる見込みであり、北信越方面の自治体ではこの開業に合わせた様々な動きがある。白川村の準備・対応についてはどのような状況かお聞きしたい。

A、北陸新幹線の開業に伴い関東方面の観光客が増えることを期待しており、いかにして飛騨地域に観光客を呼び込めるか関係自治体・団体と協議を行っています。2次交通

の拡充は非常に重要であり、バス会社では高速バスの試験運行等が新幹線の開業を見据えて行われているほか、現在の高速バスの離発着は40便以上を確認しています。また、東海北陸自動車道4車線化や国道156号の大改良なども県・国に向けて要望します。その他に、富山県城端駅のハブ化構想について話があります。白川村の発展には必要なものであり、実現に向かうよう協議に加わりたいと考えます。観光計画の策定を進め、観光客が何回でも来たいと思う村づくりを行っていきます。

新年度予算編成と重点施策について (松井議員)

Q、平成24年度の予算編成方針に対して、その実績を現在どのように考えるか。また新年度に向けた予算編成における事業計画と、白川村の10カ年を想定した財政面の展望についてお聞きしたい。

A、今年度、第3四半期までの実績を踏まえて人口増加対策を一番に考え、企業誘致や教育・福祉行政など必要な施策を講じながらマニフェストに基づいて村づくりを着実に進めています。新年度の予算編成については、第一に大震

災に備えるため、孤立集落を防ぐための橋梁防災事業や、教職員住宅の建設、白山スノーパーク道へ向かうトンネル改修、大白川園地整備などのハード事業のほか、定住人口増加を目指すソフト事業を検討し予算計上を行います。財政面については、従来どおり地方交付税を一定額見込んでいます。また、平成32年の過疎対策法終了に伴い一般財源を投資した事業の増加を見越し、財政調整基金などの積み立てを行います。税については、人口増加対策による新村民からの住民税、企業誘致や大規模資産更新などによる固定資産税等の確保を見込んでいます。村の起債残高については過疎・辺地債などがほとんどであり、地方交付税算入が約60%弱保障され、利率が高い下水道債等については余裕がある時期に繰り上げ償還を行います。現在の白川村には、単独村として生き抜く基盤があり、健全経営が出来るかと考えます。

世界遺産荻町合掌造り集落内観光車両規制について

(川田議員)

Q、荻町地区では世界遺産の保全と向上のため荻町交通対策委員会が中心となって、平

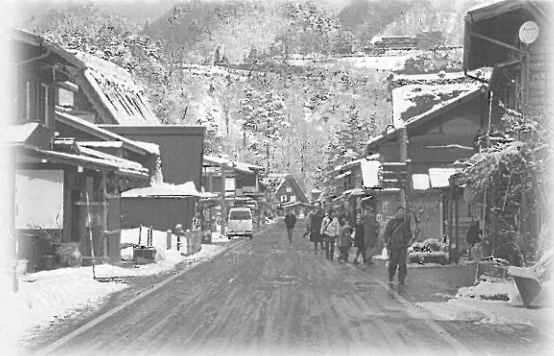
成26年4月からの集落内観光車両規制を実施するための協議が行われてきた。荻町区大寄り合いに図って同意を得る予定であるが、同委員会が要望案として考えている、南に位置する弥陀島公園駐車場の整備、北に位置する診療所の移転と駐車場整備についてどのようにお考えかお聞きしたい。

A、世界遺産登録時から車両規制については長年の課題であり、この課題に取組んで協議を重ねた交通対策委員会関係者皆さんのご苦勞は計り知れませんが、荻町区としての同意を得ていない段階ではありますが、村として長年活用し

ている診療所の状況を把握するため、平成25年度に耐震調査を行います。また、渋滞が発生する交差点に診療所があることも問題であり、移転等も必要でないかと考えます。駐車場の整備については、交通計画で南北の駐車場整備の必要性が位置づけられています。寺尾駐車場の活用や、民間駐車場の問題など、様々なことを解決しなければいけません。地域が真剣に議論してきたこと、決断してきたことを無駄にはできないと考えます。要望があつた際は伝建審や議会、関係団体皆さんと共に協議し前向きに検討します。

荻町区で方針決定

「集落内観光車両制限」



12月23日(日)荻町区の大寄せで、荻町集落内の観光車両乗り入れ制限の方針が大多数の同意で決定されました。平成25年4月から土日や行楽シーズンなど、平成26年4月からは通年で荻町集落内の村道約1キロを午前9時～午後4時までの時間、観光車両を通さない方針です。世界遺産の保全に向けて、地域住民の切なる思いが新たな形となりました。

消防署だより

平成24年度 全国統一防火標語
『消すまでは 出ない行かない 離れない』

【平成24年中の災害 出動件数】

平成24年中の白川出張所の災害出動件数は左記のとおりです。

- 救急出動 93件
 - 火災出動 1件
 - 救助出動 0件
- 救助出動は昨年に比べ3件の減少となり、救急出動、火災出動は共に昨年と同じ件数でした。

【ひとり暮らし高齢者宅訪問】

12月上旬、白川出張所職員が、ひとり暮らし高齢者宅を訪問しました。暖房器具、コンロ等の火の取扱いの注意喚起や、住宅用火災警報器の設置状況を確認しました。訪問の際は、皆さん笑顔で迎えて頂きありがとうございました。

【救助訓練実施中】

冬期間は降雪により屋外で訓練が出来ないことから、車庫にて救助訓練を行っています。

ロープを使つての登はん、降下の基本訓練や、転落した人を引揚げの方法の確認を行っています。



【消防水利の除雪にご協力をお願いします。】

積雪の季節です。万一の災害に備えて、消火栓・防火水槽・初期消火器具ボックス周辺の除雪について、皆様のご協力をよろしく願います。



降下訓練をする隊員

12月中の火災と救急 火災 0件 救急 10件 救助 0件